令和４年８月に行われた本庄七夕まつりの様子

特集 マーケットのあるこのまちが好き

マーケットで出会う、まちの魅力

マーケットを通して触れるヒト・モノ・コト

マーケットと聞いて、皆さんはどんなイメージを思い浮かべますか。

イベントや単なる売り買いの場だと思われる方も多いかもしれませんが、「地域コミュニティの役割を果たす場所」や「居心地の良い場所」など、実はそれぞれの立場や解釈によって、多くの「意味」を持った場所になります。

現代は、スマートフォンがあれば、いつでもどこでも無駄なく効率的に買い物ができる時代です。

ただ、かつての商店街で、店主と会話をしながらお店をめぐる買い物を想像してください。揚げたてのコロッケの匂いやお客さん同士の会話、そこには五感を満たす幸福感がありました。非効率で「無駄」なこともあったかもしれませんが、その「買い物」という行為自体に、温かみのある価値を感じませんか。マーケットは、かつての商店街の良さを一時的でも生み出せる場所なのだと思います。

今、市内ではたくさんの主催者がそれぞれの想いをもって、特色あるマーケットを開催しています。

マーケットを通して、市内でこんなにも素敵なヒトに、モノに、コトに、出会えること。その価値をぜひ知り、感じてもらえれば幸いです。

対談 マーケットを形作る人たち

今から5年前の本庄市では、ここまで多くのマーケットは開催されていませんでした。まさにその5年前から動き出した商店街活性化のための「本庄NEXT商店街プロジェクト」。そのプロジェクトから生まれた「ほんじょうマルシェ」は、市内でのマーケット開催の先駆けであり、その後のマーケット開催にかかる機運醸成に少なからず影響を与えていると思います。

その「ほんじょうマルシェ」に携わり、それぞれがマーケットの主催者である3人と、マーケットと地域の関わり方を研究している鈴木美央さんで、これまでの市内のマーケット事業を対談で振り返りながら、なぜ、いま地域にマーケットが必要なのか、また、マーケットの持つ魅力とは何なのかを考えます。

鈴木美央さん

オープラスアーキテクチャー合同会社代表。工学博士。

令和２年度から本庄NEXT商店街プロジェクトにアドバイザーとして参画。マーケット、公共空間、商店街支援等を専門とし、全国の自治体や大学等で活躍。著書に「マーケットでまちを変える～人が集まる公共空間のつくり方～」がある。

松浦常雄さん

本庄商店街連合会会長。銀座通り眼鏡店主。

平成30年度から本庄NEXT商店街プロジェクトメンバーとしてイベント部会に参加。

現在は、本庄商店街連合会として、商店街のお店をもっと多くの人に知ってもらうため「商店会マーケット」を年２回開催している。

出牛健太郎さん

本庄市商工観光課商工労政係職員。

令和２年度から現部署へ配属。商業支援、創業支援を担当するほか、マーケット（公共空間利活用実証実験）や本庄MEET & TALKの開催、市内のマーケット情報を取りまとめたマーケットカレンダーの作成等の業務を行っている。

山田康博さん

㈱山田屋代表取締役。

平成30年度から本庄NEXT商店街プロジェクトメンバーとしてイベント部会に参加。

現在は、ほんじょうマルシェ実行委員会のリーダーとして、メンバーとともにまちなかに賑（にぎ）わいを創出するため、「本庄七夕まつり」などさまざまな仕掛けを行っている。